

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	家族介護者等支援事業			事業コード	0426
所属コード	066100	課等名	高齢者支援室	係名	
課長名	渡邊 光市	担当者名	小川 文子	内線番号	3562
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード	4
	基本事業	高齢者福祉サービスの充実	コード	2
予算費目名	介護保険費特別会計 3 款 2 項 2 目 任意事業(001 - 01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 12 年度	
根拠法令等	盛岡市家族介護者リフレッシュ事業実施要綱			

(2) 事務事業の概要

日帰り及び1泊2日の日程で、寝たきり高齢者等の家族介護者が介護技術の知識を高めたり、介護者同士の交流を図り、日ごろの生活からリフレッシュするための機会を提供する。(盛岡市社会福祉協議会に事業委託している)

(3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

平成 12 年度 4 月から国の補助制度となったことより開始された。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

在宅で介護する場合であっても、介護保険制度を適切に利用することで介護にかかる負担を軽減できることができるようになったため、当事業の中で介護保険制度の周知を図る必要がある。なお、当該事業の財源は、平成 18 年度から「県費と一般財源」から「介護保険費特別会計」となった。

参加者からは、日々の介護から開放される機会であり、対象者から継続してほしいという要望が寄せられている。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

家庭でねたきりの高齢者や身体に重度の障害を持つ者の介護に当たっている者。

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 参加者数		44	55	65	53	65
B						
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

年度実績 (23年度に行った主な活動)

日帰り (1回) 及び1泊2日 (2回) の日程で介護者同士の交流や施設見学などを行う「家族介護者リフレッシュ事業」を, 市社会福祉協議会に委託して年3回実施した。


(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 開催回数	回	2	3	3	3	3
B						
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

心身共にリフレッシュできる機会を持つことで, 在宅介護の継続に必要な活力を養ってもらおう。

(6) 成果指標 (意図の達成度を示す指標)

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 参加者数/家庭でねたきり高齢者等を介護している者の数×100	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input checked="" type="checkbox"/> 維持	%	1.8	1.8	2		2
B リフレッシュできた参加者数/総参加者数×100	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	90	90	90	83.5	100
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	① 国	千円	309	321	382	368
	② 県	千円	155	161	191	185
	③ 地方債	千円	155	161	191	185
	④ 一般財源	千円	0	0	0	0
	⑤ その他()	千円	154	160	191	185
	A 小計 ①～⑤	千円	773	803	955	923
人件費	⑥ のべ業務時間数	時間	10	10	10	10
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	40	40	40	40
計	トータルコスト A+B	千円	813	843	955	963
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている

理由：介護者へのサポート体制を整備することで、要介護高齢者の在宅生活の維持につながることから結びつく。

② 市の関与の妥当性

妥当である

理由：日常的な介護で外出することの少ない介護者自身が、介護者どおしの交流の場を設定することは困難なため、市での実施がふさわしい事業である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である

理由：寝たきり高齢者または重度障がい者を在宅で介護している家族を対象としている。
年3回のリフレッシュの機会に、初回参加者がどれくらい含まれているか把握しながら、家族介護者のリフレッシュの機会として広がりを確認していく必要がある。

④ 廃止・休止の影響

現状で妥当である

理由：家族介護者を支援することで、在宅の要介護高齢者の生活を維持することを目的としていることから妥当である。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

向上の余地がある

その内容：制度の周知を図るとともに、参加しやすい日程・内容のものにしていく。

介護者家族の情報交換が図られる数少ない機会なので、有効に活用すべきである。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

公平・公正である

理由：希望する人は参加できることから対象者の選定は公平公正である。また、介護者の交流の場を市が用意することとして実施しており、現行では参加者の費用負担は想定していない。

(4) 効率性評価

事業費は必要最小限の経費であり、削減の余地はない。

人件費についても、委託業務が主な業務であり、今以上の削減は見込めない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

制度の周知について検討する必要がある。

平成 24 年度新規事業「在宅介護者等訪問相談事業」と支援対象者が重なることから、今年度の実施状況を把握し連動しながら事業を展開していく必要がある。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

盛岡市社会福祉協議会委託事業であり、年度ごとの状況報告の仕方が異なっていることから、事業実態を把握するために事業評価をするうえで必要な情報を盛り込んだ事業報告を求めている。25 年度は形式・期限を定めた報告を契約内容に盛り込みながらより事業を評価していきたい。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

在宅介護者の負担の軽減を図る事業として有効である。

社会福祉協議会や地域包括支援センター等関係機関と連携し、事業内容の周知と充実を図っていく。